



TITLE:

「物性研究」 終刊にあたって

AUTHOR(S):

---

CITATION:

「物性研究」 終刊にあたって. 物性研究 2012, 97(6): 1312-1312

ISSUE DATE:

2012-03-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/172060>

RIGHT:

## 編集部より

### 「物性研究」終刊にあたって

「物性研究」は、本号をもって終刊する運びとなりました。「主として物性分野の研究者がそれぞれの研究成果や未完成段階の研究内容を自由に発表するとともに、率直な意見交換や研究情報の交換の場を提供すること」を目的として、1943年に誕生した「物性論研究」(1943年8月～1957年3月)が、1957年に「物性論研究2集」(1957年4月～1963年8月)として継承され、さらに「物性研究」(1963年10月～2012年3月)として受け継がれてきた歴史の重みを今更ながら痛感します。つい先日のこと、長岡洋介先生がたずねてこられ、長寿を全うした本誌をねぎらっておられました。そのなかで、本号の終刊は、2011年3月11日に発生した東日本巨大地震から、奇しくも一周年にあたり、原子力発電所事故に端を発したさまざまな状況にあって、「物理学者の社会的責任」についての議論が、我が国では極端に盛り上がっていないことを危惧されていました。そうした中で、本号では山田耕作先生による環境と生命、そして物理学と科学者の社会的責任を基軸とした論考集が、歴代編集長特集とともに収録された意義は大きいと、考えております。

2012年4月に発足する「物性研究・電子版 編集委員会」では、「物性研究・電子版」(英語名称: Bussei Kenkyu @ WEB)を年4回の頻度で、電子版ジャーナルとして編集・発行します。これまでの「物性研究」の精神を継承しながらも、電子版ジャーナルでは、紙面の制約や印刷経費を憂慮することなく、カラー図版の導入や相互リンクの活用によって、現代のニーズにあった研究情報の提供と交流ができることを期待しています。掲載予定原稿は、従来と同様に以下のようなカテゴリーになります。依頼原稿、講義ノート、特集(複数の著者が共通のテーマについてまとめたもの)、シリーズ(前記の特集を継続的に発表することを目的にまとめたもの)、夏の学校テキスト、投稿原稿、研究会報告、修士論文、博士論文、ひろば(自由な意見交換の場)、および編集後記です。

今後の「物性研究・電子版」の収録予定原稿として、2003年にノーベル賞を受賞したAnthony Leggett教授が東京大学で行った集中講義の講義ノート(英語)があります。

**「物性研究・電子版」 <http://bussei-kenkyu.jp>**

年4回の最新号発行後に、目次アラートを送信するサービスを設けます。

上記サイトから簡単に登録できますので、是非ともご登録ください。

その他、ご意見やご提案など、あるいはご不明な点がございましたら、編集委員会まで電子メールにてご連絡いただければ幸いです。

「物性研究・電子版」編集長 村瀬 雅俊

[busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp](mailto:busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp)